

メッセージアウトライン

ローマ 5：12～21 「満ちあふれる恵み」

[12]「ひとりの人(アダム)によって罪が世界に入り、罪によって死が入り、こうして死が全人類に広がった」人類の始祖アダムが罪を犯したことは彼個人のことで終わらず、全人類が罪を犯したことになる。すべての人間は彼から出てきており、彼と連帯している。

[13-14]アダムからモーセまでの間、つまり律法が与えられるまでの時期にも罪は世にあった。ただそれは律法がなければ自覚できなかったのである。

「アダムは来たるべき方のひな型です」。「来たるべき方」とはイエス・キリストのこと。キリストが本体であり、アダムはそのひな型(モデル)なのである。

[15-16]「ただし、恵みには違反の場合とは違う点があります。もしひとりの違反によって多くの人々が死んだとすれば、それにもまして、神の恵みとひとりの人イエス・キリストの恵みによる賜物とは、多くの人々に満ちあふれるのです。…」

「違反」とはアダムが罪を犯したことであり、「恵み」とはキリストによる救い、罪人を義とする神の恵みの行為のこと。アダムひとりの違反によって多くの人に罪と死が入ってきた。しかし、救いはひとりの人イエス・キリストの恵みによって多くの人々に満ちあふれる。

[17]「もしひとりの違反により、ひとりによって死が支配するようになったとすれば、なおさらのこと、恵みと義の賜物とを豊かに受けている人々は、ひとりのイエス・キリストにより、いのちにあって支配するのです」

アダムとキリストは単に対等、並行に比べることはできない。アダムは土から造られた人間であり、キリストは神である。それですべてにおいてキリストがすぐれており優勢である。神の恵みはすべてにおいて人間の罪をしのぎ、超えるのである。この神によって恵みを受け、義の賜物、救いを受けている人々は罪の結果のさばきとしての死に支配され、死を恐れるのではなく、キリストのいのちにあって支配され、日々、罪に打ち勝つことができ、神のさばきにあわず永遠のいのちに至るのである。

[18]「こういうわけで、ちょうどひとりの違反によってすべての人が罪に定められたのと同様に、ひとりの義の行為によってすべての人が義と認められ、いのちを与えられるのです」これは今まで見てきたことの結論である。「ひとりの義の行為」とはキリストの十字架の死による人間の罪の贖いのこと。

[19]ここでは今まで「違反」ということばによって表現されていた罪が「不従順」ということばに言い換えられている。そしてアダムの不従順とキリストの従順とが対比されている。キリストが死に至るまで父なる神に従順であられたがゆえに、多くの人を義とする道が備えられたのである。

[20-21]「罪の増し加わるところには、恵みも満ちあふれました。…」人間の罪がどれだけ増し加わっても、なお神の恵みはそれを上回り、人を救うことができる。罪は死によって人間を支配したが、神の恵みは私たちの主イエス・キリストにより、私たちを救い、義の賜物によって支配し永遠のいのちを得させるのである。